

コウヨウザン共同試験地 設定に向けて

四万十署管内のぼう芽再生林を

二月九日（火）局において、「コウヨウザン共同試験地設定会議」を開催しました。

会議には、森林総合研究所 林木育種センター等（三名）、四万十署、局から業務管理官、計画課、保全課、森林整備課、資源活用課・森林技術・支援センター、技術普及課職員が出席しました。（写真）

コウヨウザンは常緑針葉樹で、ぼう芽更新する特性を持ちます。

四万十署管内 辛川山国有林内で、昭和八年に植栽、昭和六三年に伐採しています。

ぼう芽再生林として現在に至り、日本国内では希少な再生林として注目されています。

会議では、コウヨウザンのDNA鑑定等を通じて、コウヨウザンのぼう芽や成長調査等を行うことを

目的とした試験地として設定に向けた課題を話し合いました。

参考「コウヨウザンのぼう芽更新」は、平成元年度技術開発研究考案発表集に掲載）



里帰りした 校庭のアカマツ

高知市立第六小学校

高知市立第六小学校の校庭に植えられているアカマツ（樹齢およそ百年超）の樹勢が衰えているとの相談が、校長先生から技術普及課へ寄せられました。このため、林木育種センター関西育種場に昨年、1月29日に穂木の採取を依頼（グリーン四国 2015年2月号参照）。このたび、接ぎ木された穂木の里帰り植樹が2月9日に第六小学校で開催されました。

当日は、アカマツの下で、関西育種場から苗木の贈呈が行われ、技術普及課から植樹の指導等を行いました（写真上）。



植樹は、昨年穂木を採取した5・6年生が、各班に分かれて記念植樹を行いました。植樹後は、植樹した児童名が入った木札も標示しました。（写真下）



この事業は、林木育種センター関西育種場が取り組んでいる巨樹・名木等の遺伝資源のクローン増殖サービス「林木遺伝子銀行110番」に小学校から申請して受理されました。



「常緑樹も落葉する」 って

サクラやイチョウ（写真上）などの落葉樹は、秋から冬にかけて全ての葉を落とす。



では、シヤカシ・ツバキなどの常緑樹は落葉しないのか。

常緑樹も落葉する。ただ、落葉樹のように一斉に落葉しないので、見た目にはいつも緑色の葉を付けた木に見える。ふつう、常緑樹では、新しい葉が出ると同時に古い葉を落とす。



落ち方もユズリハ（写真下）やクスノキのように新しい葉の出る4月、5月ごろ一斉に落葉するものがあるが、多くの場合、一年中落葉している。（街の自然観察 矢野亮著より）

編集後記

2月、局内でもインフルエンザが。
3月下旬、サクラの開花予想も。
季節と上手につきあい 体調管理を。